

第48回衆議院選挙への対応について

2017年10月13日

東京清掃労働組合

第1回中央委員会

1 この間の情勢について

① 希望の党の結党、衆議院解散、民進党と希望の党の合流

9月25日、小池都知事は、記者会見で党名を「希望の党」とする新党を結成することを発表、併せて自身が代表に就任することを発表した。

9月27日、小池代表はじめ結党メンバーとなる国会議員14人が記者会見を行い、「希望の党」の旗揚げを正式に発表した。これに先立つ26日夜、小池代表と民進党・前原代表が数度に亘り会談を重ね、民進党と希望の党の合流が協議され、最終調整に入ることで合意したと報道された。

9月28日、安倍首相は衆議院を解散した。「森友」「加計」学園疑惑について、「丁寧に説明する」としていたにも係らず、憲法に基づく野党の臨時国会召集要求を放置し続けた上に、衆議院解散によって疑惑をうやむやにして状況の打開を図ろうとしたものである。

同日、民進党は、衆議院解散直後に両院議員総会を開催し、「希望の党」への合流方針について説明した。総会後の両院議員総会では、前原代表が「候補者を排除させない」、「安保法制は憲法違反との考えは変わらない」等としたことから、解散・総選挙への対応策として、立候補予定者全員が「希望の党」からの公認をめざす方針が確認された。

② 民進党の対応決定後の動きと「立憲民主党」の結党

民進党の両院議員総会では、候補者の排除はないことを前提とした合流方針への了承であったにも係らず、9月29日、希望の党・小池代表は、安保法制や憲法改正などで政策が一致しない公認希望者について「排除いたします」と明言したことから、一部議員から激しい反発が起きた。前原代表と枝野代表代行の緊急会談、一部議員の「希望の党には合流しない」という考えが表明されるなど、情勢は慌しく動いた。

10月2日17時、枝野代表代行が記者会見し、民進党への離党届を提出するとともに、新党として「立憲民主党」を結成することを表明した。翌3日、創設メンバーとして、枝野、赤松、長妻、阿部、初鹿、菅の6人の議員が総務省に新党の設立届を提出した。

2 自治労東京都本部の対応について

10月5日、自治労都本部は、臨時単組代表委員会を招集し、第48回衆議院選挙への対応として、以下を確認した。

(1) 小選挙区への対応について

- ① 既に推薦決定した候補者（8人の重点候補者と3名の一般推薦候補者）の対応は以下のとおりとする。
 - ア) 既に推薦を決定した候補者のうち、「立憲民主党」から立候補する候補者は推薦し、支援する。
 - イ) 既に推薦を決定した候補者のうち、「希望の党」から立候補する候補者は推薦を取り消す。
- ② 新たに推薦の要請を受けた場合は、「立憲民主党」を基本に推薦を行い、選挙区情勢に応じ、「社会民主党」の候補者も推薦する。また、無所属の立候補者については、都本部の方針や理念・政策と合致することを見極めて推薦する。

(2) ブロック比例への対応について

立憲民主党を支持することを基本とする。

3 東京清掃労働組合の対応について

民進党の枝野代表代行は、「立憲民主党」結成の趣旨を、「国民の安全、立憲主義、民主主義、自由な社会を守っていくために決意」、「安倍政権の暴走に歯止めをかける役割を果たす」と説明した。幅広い市民との共闘を可能とする選択肢が必要であること、大企業優先のトリクルダウンの経済政策から国民優先のボトムアップの政治への転換、無所属で立候補せざるを得ない候補者の受け皿となることなどを理由として挙げている。また、「希望の党」による公認選別に対する不快感、不信感、反発を汲み取った決断としても評価できる。

これらの説明は、わが組合の方針とも合致するものである。よって、東京清掃労働組合は、自治労都本部の方針に基づき、東京選挙区においては都本部推薦候補者を支援することとする。また、その他の選挙区についても「立憲民主党」を基本に推薦を決定する。よって今日時点での推薦・支援候補者は以下のとおりである。

(1) 東京選挙区の推薦について

※ 都本部重点推薦候補者

- ① 東京1区（千代田区、港区、新宿区の一部）
海江田 万里（68歳、元職6期 立憲民主党）
- ② 東京7区（渋谷区、品川区、目黒区、中野区、杉並区の一部）
長妻 昭（56歳、現職6期 立憲民主党）
- ③ 東京13区（足立区の一部）
北條 智彦（33歳、新人 立憲民主党）
- ④ 東京16区（江戸川区の一部）
初鹿 明博（48歳、現職2期 立憲民主党）
- ⑤ 東京18区（武蔵野市、府中市、小金井市）

- 菅 直人（71歳、現職12期 立憲民主党）
- ⑥ 東京19区（西東京市、小平市、国分寺市）
末松 義規（60歳、元職5期 立憲民主党）
- ⑦ 東京22区（三鷹市、調布市、狛江市、稲城の一部）
山花 郁夫（50歳、元職3期 JP組織内・立憲民主党）

※ 都本部一般推薦候補者

- ① 東京4区（大田区の一部）
井戸 まさえ（51歳、元職1期 立憲民主党）
- ② 東京8区（杉並区の一部）
吉田 晴美（44歳、新人 立憲民主党）
- ③ 東京11区（板橋区の一部）
前田 順一郎（42歳、新人 立憲民主党）
- ④ 東京21区（立川市、日野市、国立市、八王子市・多摩市・稲城市の一部）
小糸 健介（35歳、新人 社会民主党）

（2）埼玉選挙区の推薦について

- ① 埼玉3区（草加市、越谷市）
山川 百合子（48歳、新人 立憲民主党）

安倍政権の下、富める者が益々富み、格差は拡大するばかりである。大企業本意の経済政策、安全保障関連法や共謀罪の強行採決、労働法制や平和憲法の改悪を目論むなど、数の力を背景とした強権政治が跋扈している。第48回衆議院議員選挙は、安倍政権の暴走を止め、平和憲法を軸とする立憲主義、草の根の民主主義を確固たるものとするための極めて重要な国政選挙である。東京清掃労働組合は、強い者の政治から国民が主役となる政治を取り戻すため、第48回衆議院議員選挙戦を全力で取り組むこととする。

以上